

# 平成30年7月豪雨におけるテレビ報道量メタデータ分析 TV coverage metadata analysis of the Heavy Rain Event of July 2018

取出 新吾<sup>1</sup>  
Shingo Toride

<sup>1</sup> 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience (NIED)

**Abstract** By the Heavy Rain Event of July 2018, 223 dead, 8 missing, 20,663 houses were completely destroyed, and 29,766 houses were flooded. In response to this disaster, the content of news reports from TV stations in the Tokyo metropolitan area was analyzed quantitatively using metadata provided by M Data Corporation.

**キーワード** 平成30年7月豪雨, テレビ報道量, 災害報道, メタデータ分析, the Heavy Rain Event of July 2018, TV coverage, disaster reporting, metadata analysis

## 1. 概要

平成30年7月豪雨により、死者223名、行方不明者8名、家屋の全半壊等20,663棟、家屋浸水29,766棟の甚大な被害が発生した。この災害に対して、テレビの報道が特定の県に偏っていたという意見が散見された。この報道の偏りが本当にあったのかを検証するために、首都圏のテレビ局の報道内容のメタデータを活用し定量的な分析を実施した。

## 2. テレビ報道のメタデータと分析手法について

### (1) 対象期間

平成30年7月豪雨は、台風7号（Prapiroon、プラピルーン）および梅雨前線等の影響による集中豪雨が引き起した災害であるため、台風7号が発生した2018年6月29日の前日から、災害対応がある程度収束した2018年7月31日までの34日間を対象とした。

### (2) 対象テレビ局

首都圏のテレビ局6社：フジテレビジョン(CX)、テレビ朝日(EX)、日本放送協会(NHK)、日本テレビ放送網(NTV)、TBSテレビ(TBS)、テレビ東京(TX)を対象とした。

データの提供元である株式会社エムデータが上記6局のみをメタデータ化しているため、これら6局のみを対象としています。またL字と呼ばれるテキストでの報道はメタデータには含まれておりません。

### (3) データ構造<sup>1)</sup>

株式会社エムデータが茨城県水戸市にあるデータセンターで作成したメタデータから平成30年7月豪雨に関わる報道のみの対象期間内5,264レコードを抽出したものを基礎データとして活用した。

各レコードには、放送年月日、テレビ局名、番組名、露出開始時間（時間、分、秒）、露出終了時間（時間、分、秒）、テキスト化された放送内容のサマリーがテキストで書かれたものが含まれています。

例えば、6月28日にNHKは5:00-8:00のニュース番組「おはよう日本」で、「九州北部・局地的に激しい雨」として、露出開始時間:5時5分55秒から露出終了時間:5時7分47秒の1分52秒の尺で放送し、同番組内で2分45秒、3分12秒、2分3秒と合計4回、9分52秒放送しました。

注1) 株式会社エムデータとの守秘義務契約があるため放送内容のサマリーや詳細なデータ構造に関しては公開不可となっています。このため用語などは一部変更等しています。

### (4) 報道量

例えば、6月28日にNHKは5:00-8:00のニュース番組「おはよう日本」で、「九州北部・局地的に激しい雨」として、露出開始時間:5時5分55秒から露出終了時間:5時7分47秒の1分52秒の尺で放送し、同番組内で2分45秒、3分12秒、2分3秒と合計4回、9分52秒放送しました。

### 3. 報道時間推移

平成30年7月豪雨に関わる災害報道の全体像を把握するために、日毎のテレビ報道の量を秒数で足し合わせたものが図1:報道時間推移となる。7月6日（金）から急激に報道時間が増えていることがここからわかる。

実際に小田川（岡山県倉敷市真備町）では、7月6日11:30に避難準備・高齢者等避難開始発令し、7月6日22:00に真備地区全域に避難勧告発令されているところからも、7月6日に報道時間が増えているのは適切な対応と思われる。しかしながら、翌日の7月7日（土）と7月8日（日）に一旦報道時間が下がり、7月9日（月）に再度報道量が増加している。

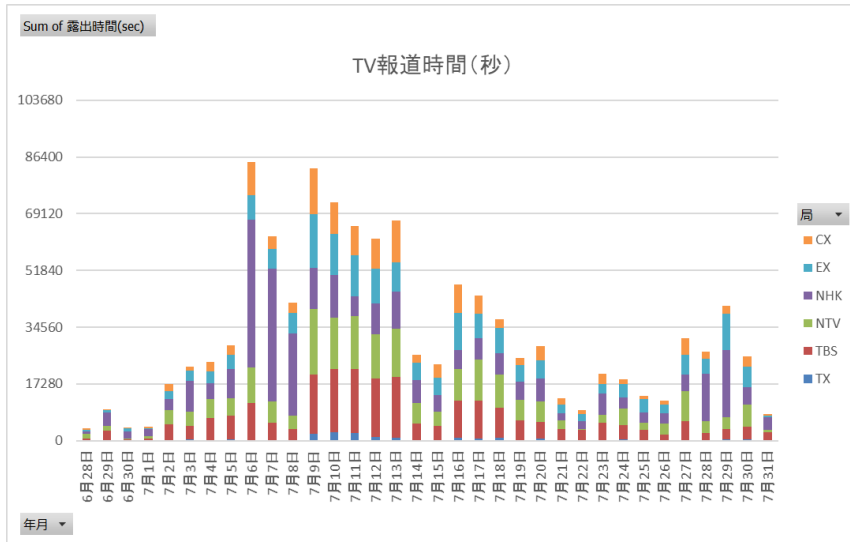


図1: 報道時間推移

次に、図2 報道時間推移（比率）を見てみると、災害の発生が高く見込まれるようになってきた7月6日から7月8日はNHKによる報道時間が民放に比べて長くなっていることがわかり、7月9日（月）から民放の比率が高まり始めます。

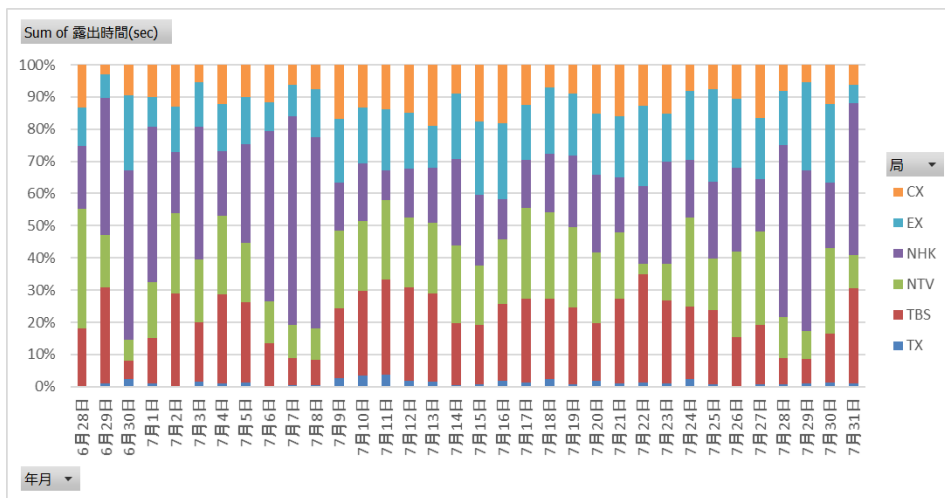


図2 報道時間推移（比率）

### 4. 都道府県別

図3 都道府県別報道時間推移（比率）により、7月5日～7日は、京都、兵庫、高知、福岡の報道

量が多く、徐々に広島、岡山、愛媛の報道へとシフトしていく様子が見て取れます。

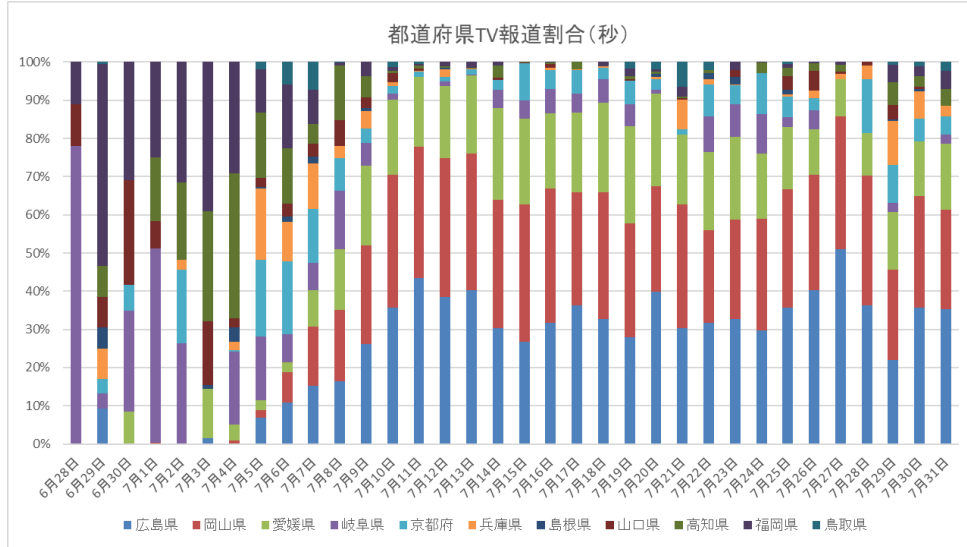


図3 都道府県別報道時間推移 (比率)

これを地図上にプロットしたものが図4 6/28~7/31都道府県別報道時間合算となり、広島県、岡山県の報道量が多く、次いで愛媛県、京都府となることがわかります。

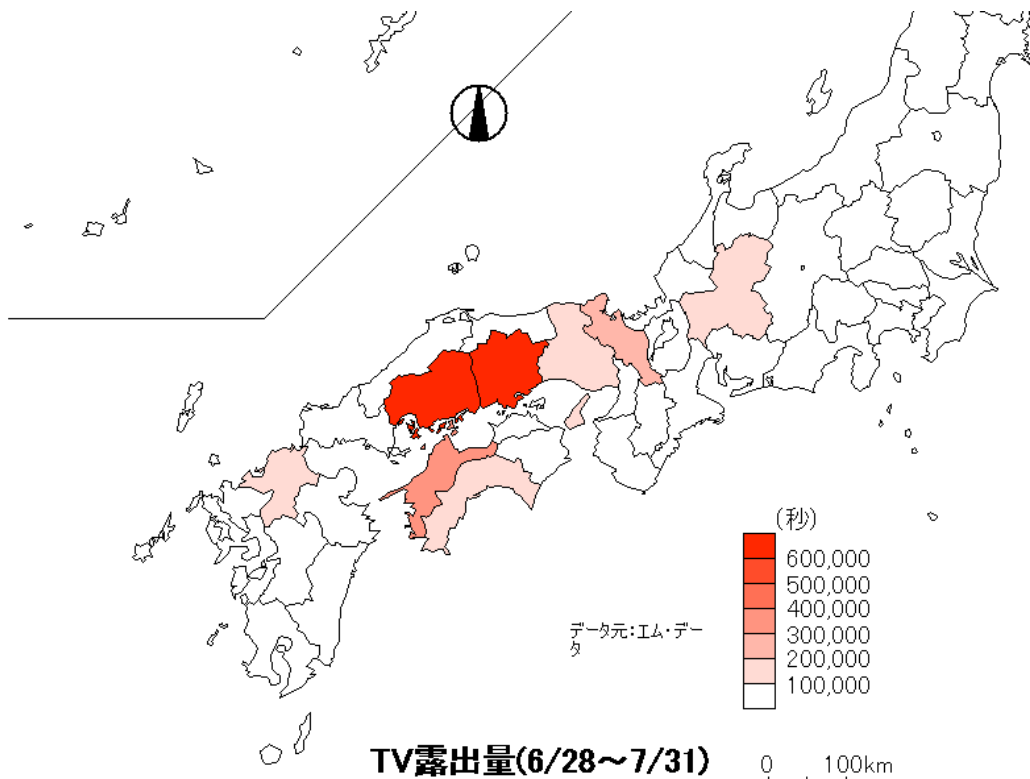


図4 6/28~7/31都道府県別報道時間合算

7月6日~7月9日の報道量の推移を日ごとに地図上にプロットしたものが図5 7/6~7/9報道量推移で、これをみると7月6日は京都府の報道量が多く、7日には京都・広島・岡山の報道量が増え、7月9日には広島・岡山・愛媛に収束していく様子が見て取れます。

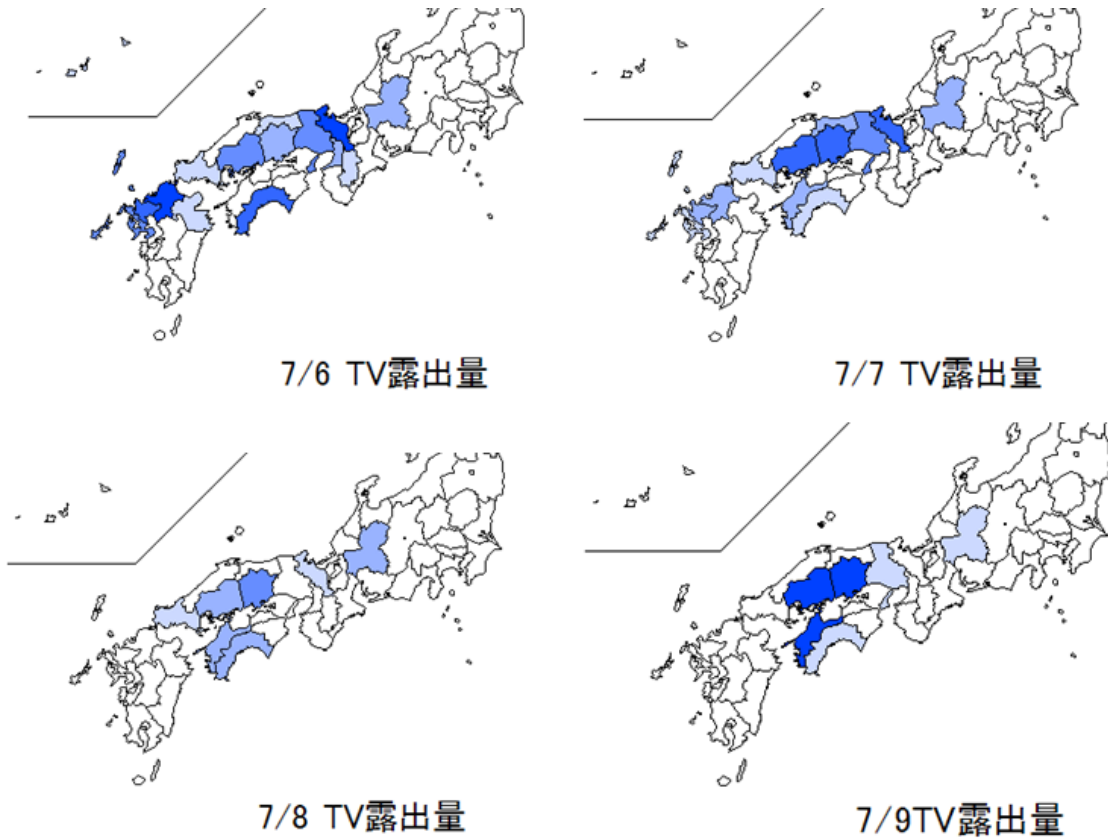


図5 7/6～7/9報道量推移

広島県、岡山県、愛媛県の県別の報道量推移をグラフにしてみると、広島県と岡山県の報道量はほとんど同じで、愛媛県がやや少ないことがわかりますが、グラフの形状はほぼ同一で報道の傾向は変わっていないこと見て取れます。また、表1 広島県・岡山県・愛媛県の人的・物的被害数と比較するとわかる通り、報道量は人的被害と物的被害と相関がある様子が見て取れます。

	死者数	行方不明数	全壊数	半壊数	一部損壊数
広島県	115	5	1,150	3,602	2,119
岡山県	66	3	4,828	1,131	1,131
愛媛県	31	0	625	3,108	207

表1 広島県・岡山県・愛媛県の人的・物的被害数

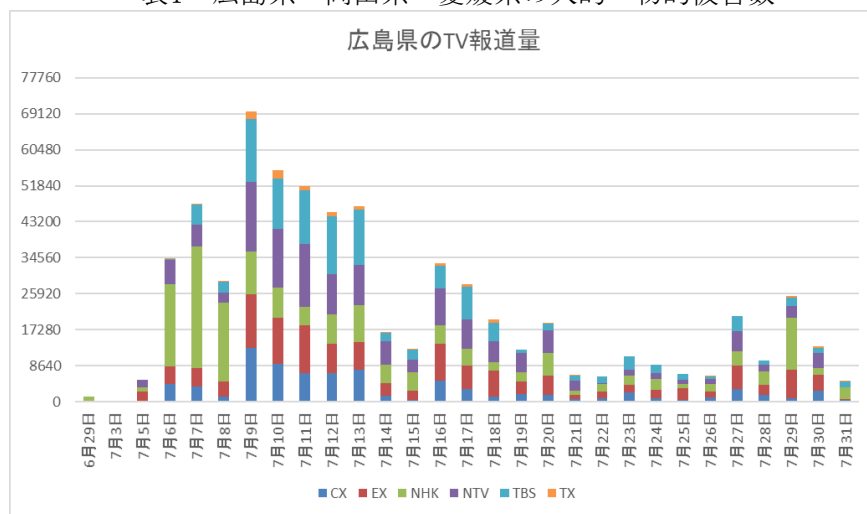


図6 広島県報道量推移

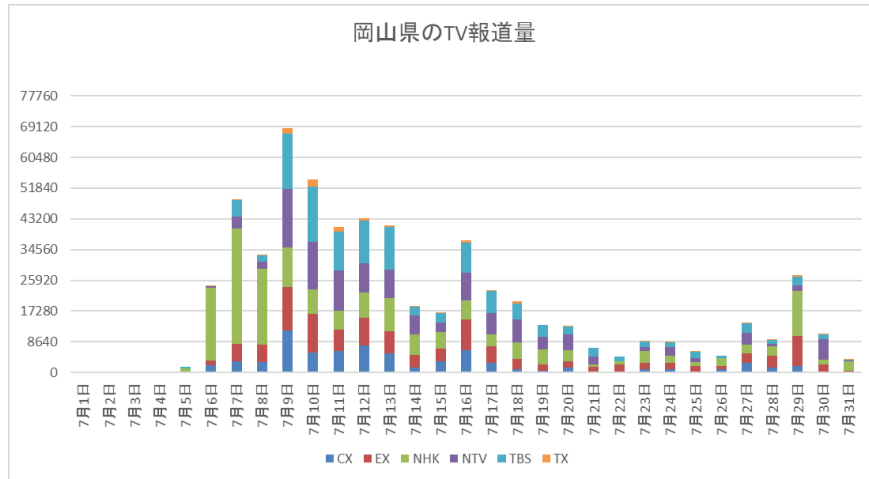


図7 岡山県報道量推移

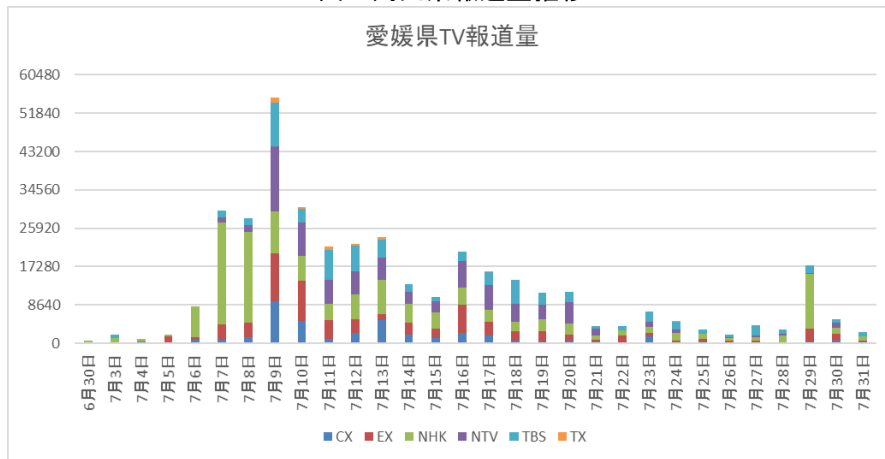


図8 愛媛県報道量推移

5. NHKと民放の比較

図9 NHKの報道量を見て明らかな通り、NHKの報道量は7月6～8日が多く、9日から急激に減り始めます。この期間にNHKは通常の番組を取りやめ災害報道に徹していましたが、それ以降は通常の番組の放送に戻しました。

図10 民放の報道量を見ると、7月6日（金）は報道量が多かったものの、災害が今まさに発生している7日（土）、8日（日）の報道量が極端に減っています。これは民放はワイドショー枠で災害報道をしているために土日の報道が減っていることがわかります。

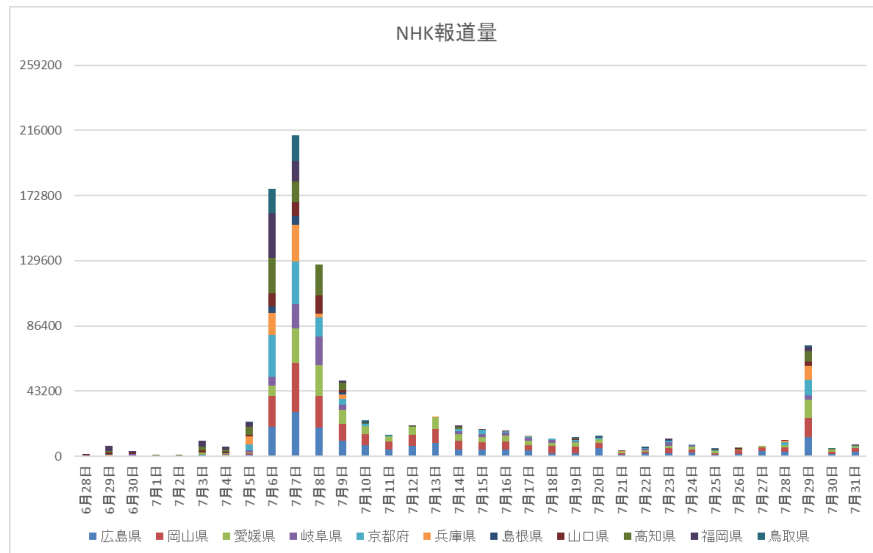


図9 NHKの報道量

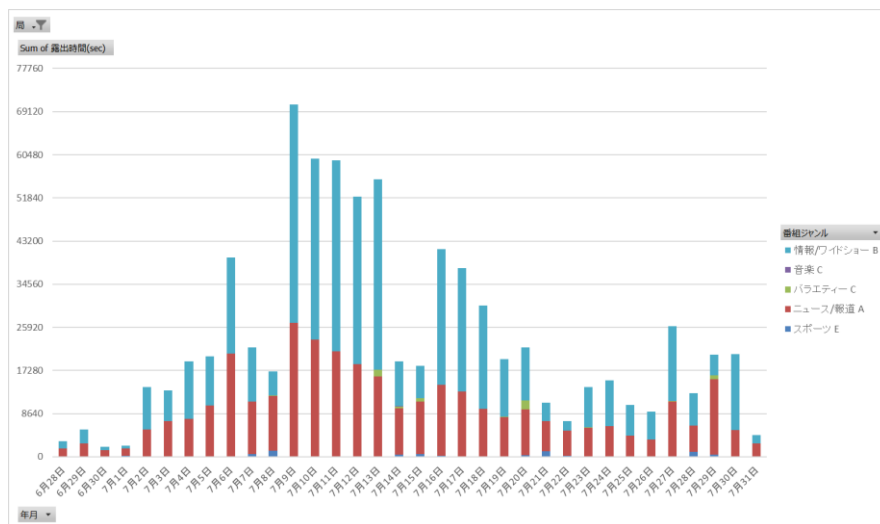


図10 民放の報道量

## 6. まとめと今後の展望

平成30年7月豪雨において、特定の県に報道が偏っていたという事実がないことは本研究で示せた。今後は他の広域災害でも同様の結果となるのかを検証する必要がある。

## 7. 謝辞

本研究のために貴重なデータをご提供頂いた株式会社エムデータに厚くお礼を申し上げます。

## 8. 参考文献

国土交通省：平成30年7月豪雨災害の概要と被害の特徴

[https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai\\_blog/hazard\\_risk/dai01kai/dai01kai\\_siryou2-1.pdf](https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/hazard_risk/dai01kai/dai01kai_siryou2-1.pdf)

内閣府防災：平成30年7月豪雨による被害状況等について

<http://www.bousai.go.jp/updates/h30typhoon7/h30typhoon7/index.html>